WORLD HERITAGE

# NEWS Letter

世界遺産ニュースレター

## 世界遺産富士山の後世継承に向けて

特集

夏山登山に向けて

世界遺産構成資産紹介

**大宮・村山口登山道**

**世界遺産センター整備課からのお知らせ**

研究員コラム

**海を渡った富士山**

vol. 31
August, 2016

世界遺産ニュースレター NEWS Letter vol.31 発行／静岡県世界遺産センター整備課

〒420-8601 静岡市葵区追手町9-6 TEL.054-221-3657 FAX.054-221-3757
http://www.pref.shizuoka.jp/bunka/bk-150/fujisanwhc-top/fujisanwhc-top.html
e-mail whcenter-seibi@pref.shizuoka.lg.jp

研究員コラム

# 海を渡った富士山

海を渡った富士山。そう聞いて、思い浮かべるのは何ですか？

まずは“Great Wave”こと葛飾北斎画『富嶽三十六景』中の「神奈川沖浪裏」でしょう。この作品は十九～二十世紀転換期フランスのアールヌーヴォーやドイツ・オーストリアのユーゲントシュティールの芸術家たちに影響を与えたのみならず、ロシアの画家イワン・ビリーピンの『スルタン王物語』表紙デザイン（一九〇五年）にも摂取されました。フランス印象主義の作曲家クロード・ドビュッシーが「神奈川沖浪裏」に霊感を得て交響詩《海》を作曲し、総譜の表紙に図案を借用したことはよく知られています。一九一一年「神奈川沖浪裏」の前に座るドビュッシーとイーゴリ・ストラヴィンスキー（同年《ペトルーシュカ》を作曲）をエリック・サティが撮影した写真も残っています。ヨーロッパ文化圏を呑み込んだ巨大な波（グレイト・ウェイヴ）―十九世紀ジャポニスムの狂騒のなか〝フジサン〟は重要な役割をになうのです。

そのほぼ二〇〇年前、十七世紀後半から十八世紀前半のヨーロッパへ富士山が渡り、彼の地の人々を魅了していたことは余り知られていません。当時のヨーロッパは後期バロックからロココ文化の時代。シノワズリといわれる東洋趣味全盛の季節でした。王侯貴族たちは中国や日本から磁器や漆器を輸入し、オリエントの宝器でその豪奢な宮殿を飾り立てました。こうしたなか富士山をデザインした蒔絵箪笥（キャビネット）がオランダ国王のオラニエ家、バイエルン選帝侯ヴィッテルスバッハ家、英国のハートフォード侯爵家ほかに伝わり、現存しています。それらはほぼ同一のサイズで同一の細部意匠をもつことから、日本において近い環境で製作されたのち長崎を出航、オランダ東インド会社の船に乗りジャワのバタヴィアや南アフリカ・ケープタウンを経てヨーロッパに到着し、オランダや南ドイツ、英国の城館へと伝わったことが想像されます。極東の日本を発ちバロック・ロココの花咲くヨーロッパへと長い旅をした富士山。王侯たちはその麗しい絵姿に魅せられたのです。「神奈川沖浪裏」がドビュッシーの総譜表紙を飾ったように、富士山蒔絵キャビネットの置かれた室内にゲオルク・フリードリッヒ・ヘンデルの典雅な楽曲が漂っていたかも―事実ハートフォード侯爵の蒔絵箪笥がある邸宅（現ウォレス・コレクション）は、ヘンデル・ハウスのすぐ近くに位置します（地下鉄（アンダーグラウンド）ならば同じボンド・ストリート駅下車）。こんな妄想を膨らませたくなるのも、富士山蒔絵キャビネットの色褪せない輝きゆえでしょう。

この妄想を研究へ―センターではこれら富士山蒔絵キャビネットを〝再発見〟した工芸史家で建築史家のアントン・シュヴァイツァー客員准教授と美術史家である私が専門分野を越境して協働し、十七世紀に海を渡った富士山の謎そして魅力を明らかにしていきます。ご期待ください！

（世界遺産センター整備課准教授　松島　仁）

**富士山蒔絵キャビネット 一対 バイエルン州立貨幣収集館**（バイエルン選帝侯ヴィッテルスバッハ家旧蔵）（Anton Schweizer,Martin Hirsch and Dietrich O. A. Klose(ed.), Japanische Lackkunst für Bayerns Fürsten: Die Japanischen Lackmöbel der Staatlichen Münzsammlung München,Staatliche Münzsammlung, 2011 より複写・転載）

特集

# 夏山登山に向けて

## 富士山保全協力金のお願い

平成28年の静岡県側の富士山の開山期間は、7月10日㈰から9月10日㈯までです。

この期間に五合目から山頂を目指す登山者の皆さんには、「富士山保全協力金」の協力（基本：千円）をお願いしています。

この協力金は、①富士山の環境保全、②登山者の安全対策、③富士山の普遍的価値の情報提供に関する事業に充てられます。昨年は、バイオトイレの改修や万一の噴火に備えた、ヘルメット等の山小屋配備などに充てられました。

協力いただいた方には、協力者証として、歌川広重の「富士三十六景　駿河薩岳嶺（するがさったみね）」をデザインに取り入れた缶バッジと世界遺産富士山の構成資産を紹介する『富士山ぐるり旅手帖』を差し上げます。

この旅手帖は、構成資産のスタンプラリーに対応しているので、山そのものだけでなく、周りにある神社や滝なども訪ねてみてはいかがでしょうか。

## 富士山アプリで情報収集

この夏、「富士山総合ガイド」が始動します。

ここから、登山管理アプリ「コンパス」と「富士山ぐるぐる旅行」の2つのアプリをダウンロードしていただくと、富士登山に必要な情報や富士山周辺の観光情報を入手することが出来ます。

これまで、夏の富士登山では登山届を提出する方が少なかったのですが、このアプリを利用いただくと簡単に届出が可能で、万一、噴火情報が出た場合に、届出時に利用したスマートフォンにメールが届くサービスや登山届を出していただくと、富士山周辺の施設の優待サービスを受けることができます。

富士登山や周辺観光に関する情報が入手できるほか、オリジナルフォトフレーム提供機能もあるので、登山や観光の思い出作りに活用してください。

「富士山総合ガイド」はこちらから

# 世界遺産センター整備課からのお知らせ

## お知らせ① 研究員が新たに着任しました

世界遺産センター整備課では、様々な分野から富士山を研究するため、専任の研究員がそれぞれの分野の研究を進めています。

今年度は、新たに文化人類学と国文学を専門とする研究員が着任しましたので、各研究員から御挨拶を申し上げます。

**ハドソン・マーク教授**

専門は人類学、特に日本列島の民族形成論。研究のなかでは、歴史生態学の視点から民族形成の過程をみてきましたので、山、島、海、森、列島内の多様な自然が研究の背景にあります。近年は、フランス東南部の山間地域と比較研究を行っています。

富士山世界遺産センターは、富士山という遺産を「守る」、「伝える」、「交わる」と「究める」という組織になります。そのために、日本初の世界遺産研究所となります。センターの研究員は、世界で通じる高い研究レベルを目指します。センターのオープニングに向けて、研究組織をまず作ります。

**田代一葉主任研究員**

専門は、日本の古典文学で、特に江戸時代の和歌や俳諧、古典学について勉強をしています。もともと、絵を見るのが好きだったこともあり、絵画に和歌などの詩歌を添える画賛という文芸の、詩・画・書一体となって作り上げる世界に興味を持ち、これまで研究を進めてまいりました。

今後は、富士山を中心とした駿河国の歌枕について、詠みぶりの時代的な変遷をたどるほか、紀行文や小説類にも目配りをしつつ、言葉の側から「芸術の源泉」としての富士山の魅力を追求していきたいと思っております。

## お知らせ② 富士山かぐや姫ミュージアムに世界遺産富士山の紹介コーナーを設置

世界遺産センター整備課では、平成28年4月29日にリニューアルオープンした「富士山かぐや姫ミュージアム」（富士市伝法）に、世界遺産富士山と富士山世界遺産センター（仮称）を紹介するコーナーを設置しました。

コーナーでは、富士山世界遺産センター（仮称）の模型とパース図のほか、世界遺産富士山に関する説明パネルを掲出しています。

また、世界文化遺産としての富士山や、静岡県側登山道等を映像で紹介するデジタルサイネージも設置していますので、是非御覧ください。

富士山かぐや姫ミュージアムの詳細については、ホームページ等でお確かめください。

## お知らせ③ 第4回富士山世界遺産セミナーの開催

今年から、8月11日が山の恵みに感謝する日として祝日になりました。今回の富士山世界遺産セミナーは、山の日記念公開シンポジウムと題し、「生活が育んだ山の風景：1万年の物語」をテーマに講演等を行います。

詳細については世界遺産センター整備課ホームページやチラシを御覧頂くか、直接当課までお問い合わせください。

| 項　目 | 内　容 |
|---|---|
| 日　時 | 平成28年8月11日(木・祝)　午後1時から午後5時まで |
| 場　所 | 富士宮市民文化会館小ホール　富士宮市宮町14番2号 |
| 申込方法 | 予約不要ですので、当日直接会場へお越しください |
| 定　員 | 300人 |
| 受講料 | 無料 |
| 講演者 | 小山真人静岡大学教授、小山修三国立民族学博物館名誉教授ほか |
| 主　催 | 静岡県・富士宮市 |
| お問い合わせ | 静岡県文化・観光部世界遺産センター整備課<br>電話番号054-221-2856 |

# 世界遺産構成資産紹介

## 大宮・村山口登山道

（現富士宮口登山道）

富士山本宮浅間大社を起点に、村山浅間神社を経て山頂南側に至る登山道です。

12世紀に末代上人の活動をきっかけに、このルートから登山が開始されたといわれています。

17世紀～19世紀後半には、3つの有力な坊院「村山三坊」が村山浅間神社と登山道の管理を行いました。

その後は一般人の富士登拝も開始され、その様子は『絹本著色富士曼荼羅図』に詳しく描かれています。

18世紀頃から申年ごとに富士山近隣の人々が鳥居を奉納し、建立していて、今もなお継続しています。

資産の範囲は、現在の富士宮口登山道の六合目以上です。